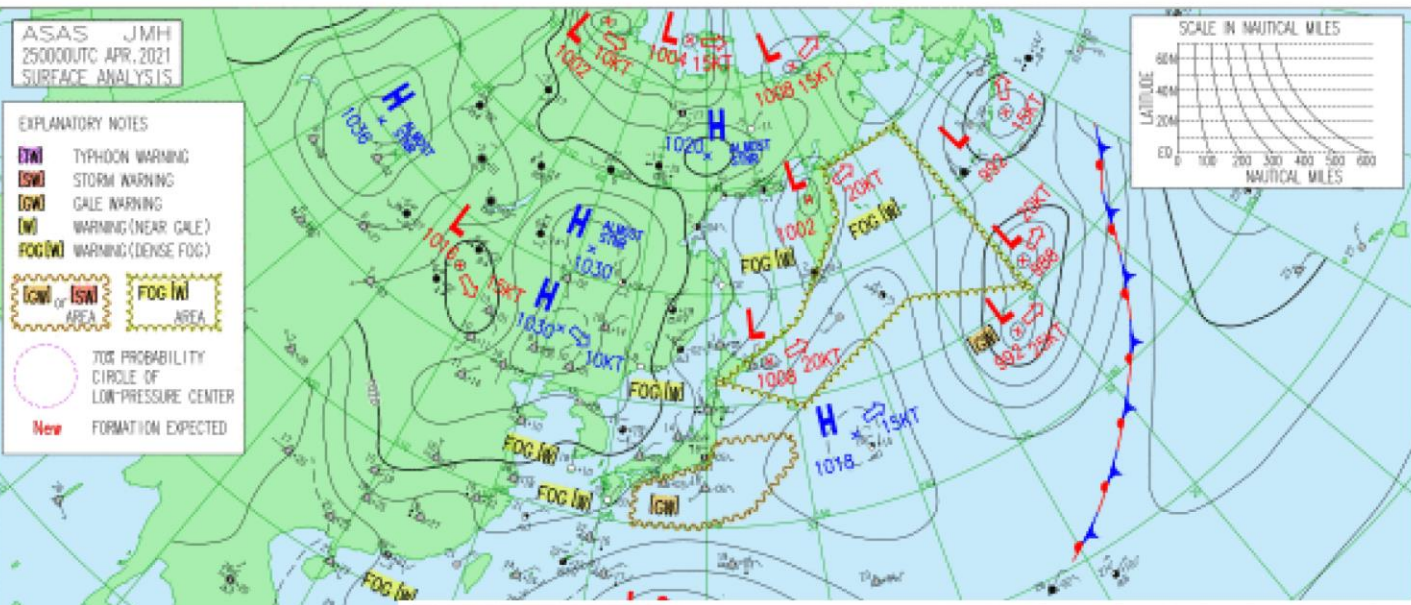




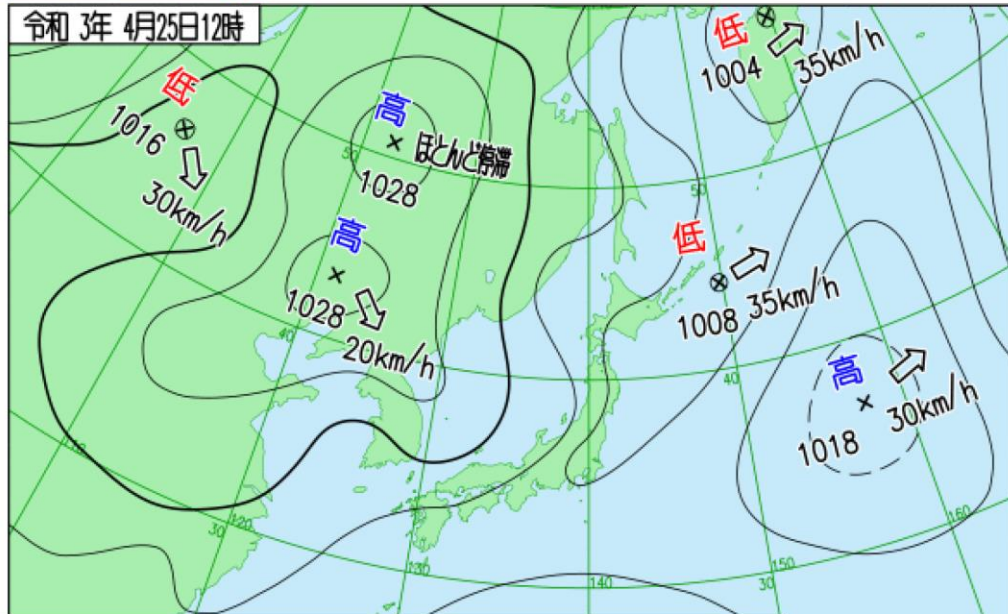
特定非営利活動法人

防災士会 みやぎ

MIYAGI BOUSAISI ORGANIZATION



Vol.16
2021.6



- 令和2年度の活動を振り返って
- 「地域実践アドバイザー派遣事業」を終えて
- 令和3年度 宮城県受託事業の今後に向けて
- 投稿特集：震災から10年を迎えて
- トピックス（スキルアップ研修会活動状況等）
- 新入会員紹介・気象一口メモ・編集後記



〔表紙：アジア太平洋域地上実況天気図（上）・日本周辺地上実況天気図（下）（出典：気象庁HP）〕

令和2年度の活動を振り返って

新型コロナウイルス感染症下での大変な年「令和2年度」大変お疲れ様でした。

そして、本会への活動へのご尽力に対して改めて心から御礼申し上げます。

さて、「令和2年度」は「新型コロナウイルス感染症」に始まり、そして終わった1年となりました。

そして、ワクチン接種による「終息宣言」も、政府の当初の予定通りに進まず、「令和3年度」もこのウイルスに掻き回される大変な年となる事が予想されます。

令和2年度当初は、この「新型感染症」の影響で我々の事業や活動がかなり制限され、講師派遣等も減少するとの予想でした。しかし、この予想に反して過去最高となる自治体や企業等から、「講師派遣依頼」や「助言依頼」、また宮城県等からの「事業協力依頼」や相談があった大変な1年となった事には、大変、驚かされたところです。

これもひとえに、会員皆様の日頃の活躍や本会へのご協力、そして宮城県や仙台市・大崎市・山元町他の自治体様や、東北大学災害科学国際研究所等の関係機関との信頼関係構築等により、為されたものと、執行部一同感謝申し上げる次第です。

詳細な活動内容としましては、宮城県様からの委託事業「地域実践アドバイザー派遣事業」では、4自治体5地域で総計15回のアドバイザー派遣を実施し、自主防災組織の立上げや活性化、地域の避難マニュアル作りからタイムラインの作成支援等々を行い、高い評価を頂きました。

また、「講師派遣依頼等」については、派遣依頼自治体数・依頼企業数・派遣依頼件数・延べ事人数・会員参加者数がそれぞれ過去最高となりました。

「リオン事業部」では日本全国からの購入希望に対応した他、「リオン読み聞かせ会」も行ってきました。

さらに、本会への問合せ（災害時の行動や活動実態含め）が全国から寄せられたり、本会ホームページの閲覧件数が、1日平均120件（初めて集計：2月度総閲覧数4,000件）を超えるうれしい状況となりました。

宮城県からは、昨年引き続き本会の実施能力と技術力及び信頼性に高い評価を頂いており、令和3年度は、新たな宮城県の防災事業「防災実践力向上等支援事業」でも本会に依頼の打診の他、宮城県消防学校「消防団員研修」への協力依頼や、宮城県教育庁「学校防災事業」と宮城県公務研修所（県職員主査級研修）の防災研修の事業契約を行う予定です。

日本放送協会仙台拠点放送局とは、防災協力協定も締結し現在約32名の協力登録を行っており、福島県沖地震時の情報提供やアナウンス、また、女性防災リーダー特集でも積極的な協力活動を行っています。

令和2年度10名、令和3年度も4名の新規入会を頂き、現在所属防災士数133名となりました。

最後に、「新型コロナウイルス感染症」も、現時点でさえ終わりの見えない状況では有りますが、令和3年度は前記の通り、更に活動の幅と活動数が増加する事は確実と思われるので、何卒本年度も会員の皆様のご協力とご助成を改めてお願い申し上げます。



理事長 児玉敏幸

新入会員紹介

安藤俊和さん

「防災士会みやぎ」の皆さま初めまして、新年度からメンバに加えて頂く事になりました、大河原町の安藤俊和と申します。宜しくお願い致します。

今回、防災士になろうと思った直接の理由は、台風19号の水害です。大河原町の台風19号の被害は、丸森町ほどの被害はありませんでしたが、近所の住宅は床上浸水がありました。我家でも車が水害により買い替えました。

東日本大震災での地震の時も、わが町に被害がなかった訳ではありません。近年、災害が頻発していると思います。近い将来、わが町にも大きな被害が起こるのではないかと考えています。このような生活環境の中、「防災のスペシャリスト集団」の方々の経験を学び、被害の軽減ができるような防災士になりたいと考えております。

還暦を過ぎてはいますが、御指導宜しくお願い致します。



東日本大震災直後の雄勝町での1枚





➤ 「地域実践アドバイザー派遣事業」を終えて 理事長 児玉敏幸

令和2年度宮城県委託事業で、2年目最後の年となる「地域実践アドバイザー派遣事業」（随意契約）の活動状況報告です。

初年度（令和元年）チャレンジ頂いた「宮城県防災指導員」から好評を頂き、実施した全地区から継続の依頼と新規地域を含め、4自治体5地区（継続＝色麻町吉田地区・亶理町新町地区、新規＝色麻町新町地区・栗原市高清水九区・山元町つばめの杜西区）で、計15回、1地区平均3回の派遣を実施しました。

令和元年度の事業では、あくまでも「宮城県防災指導員」の支援事業の為に裏方に回った為、支援相談者からの支援要望と支援内容のギャップや直接防災指導を求められる等、想定外の事案が多く苦慮しましたが、本年度はアドバイザーの判断で直接指導や支援相談者との進め方協議や、新しい取組等進んだ支援事業となりました。

支援内容としては、自主防災組織行動力向上（組織及び行動規約作成等）や、活性化支援及び避難訓練（実践的な）のマニュアル作成と実践訓練、地区防災計画策定の基本内容作成支援等、より実践的な成果が残せたと感じます。

宮城県でも最終的に高い評価を頂き、今年度（令和3年度）は、この「地域実践アドバイザー派遣事業」の継続的事业と、昨年まで「東北大学災害科学国際研究所」が委託実施していた「地域防災活性化事業」の後継事業「防災実践力向上支援事業」を、本会が受託する予定となっております。

改めて事業の派遣担当者を募集致しますので、その節はどうかご協力、よろしくお願い致します。



➤ 令和3年度 宮城県受託事業の今後に向けて 事務局長 菅原純一

「令和3年度 宮城県防災指導員フォローアップ講習（地域防災コース）実施業務」の一般競争入札に参加の予定です。

当該会は、フォローアップ講習事業を平成30年度～令和元年度までの2年間受託し、受講者アンケートの結果において、高評価を得ることができましたが、令和2年度の競争入札では残念ながら落札できませんでした。

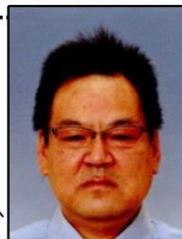
令和3年度は、自治体から例年よりも多数の防災講話のご依頼が予測されますが、会員の皆様のご協力の下、防災啓発事業の一環として宮城県受託事業を落札するため入札に参加の予定です。

新入会員紹介

木村健弘さん

私は、宮城県気仙沼高等学校定時制教諭の木村健弘と申します。

東日本大震災を気仙沼高校で体験しました。学校に避難してきた多くの住民の避難誘導を行い、その日の真夜中に旧本吉町内に住む生徒達の安否確認に向かい道なき道を進みました。また、海の仕事もしていた我が家も被災、漁港も港のある地区も多くが被災し、集会所も流され、市の避難所へは遠く孤立状態でした。高台に住む住民が被災した住民を民泊させる方法で半年近く支えあいながら共同生活を送りました。このような体験から、東京や関東をはじめ、岐阜・静岡・岩手など各地で震災体験発表なども行ってきました。「災害が発生した時、生徒がどこにいたとしても犠牲をださない防災教育」を理念に防災を学んでいます。生徒のため、地域住民のためにより高い防災力向上を目指し、防災士会みやぎの皆様には様々な防災に関するご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。



投稿特集：震災から10年を迎えて（1）

➤ 震災当時の記憶から ～自省を込めて～

保田真理さん

東日本大震災直後の混乱をご存知ない会員も増えたのだと思い、記録としてお話をさせていただきます。

当時私は、事務局長の下のポストについておりました。宮城県支部が携帯電話1本を契約しており、ちょうどそれを預かっている時期でした。安否確認の連絡網も整備されていない状況でしたので、直後から電話番号が登録されている会員には連絡を取って、安否確認をしましたが、繋がらない人の安否は、時間をかけて人から人へ伝言の形で、確認できました。沿岸被災地域には仙台と気仙沼でそれぞれ1人ずつの会員がいましたが、無事が確認されたのはかなり後のことでした。会員の人的な被害が無かったことは奇跡的でしたが、防災士としての心がけが、迅速な避難に繋がり命を救ったと感じました。しかし、当時の宮城県支部にとって、東日本大震災は全くの想定外であり、会として有事の体制は全く整えられていませんでした。

安否確認が落ち着いた頃、県外から支援の申出を多くいただきましたが、宮城県支部の中で受援体制は整えられず、一般のボランティアに申し込んでくださいとしか言えない状況でした。本部からもバスで行くが宿泊場所はあるかと問われても、会としてコーディネート等できる状況ではありませんでした。しかし、奈良県や和歌山県、九州ブロックなどからたくさんのご支援をいただきました。

気仙沼の坪井さんは、一人孤軍奮闘されて多くの住民を助けてくれましたが、その応援にも行けない状況が続きました。ただただ、歯がゆい思いで、いかに日頃からの体制づくりが大切かを痛感しました。防災士は、地域の人を助けるという一つの大きな理念を持っていますが、そのためには、自分達たちが、しっかりした体制を作って、対応力を高めてなければなりません。

現在は執行部も一新されて、事前防災活動に活発に関わっている会員の活躍を眩しく見えています。いざと言うときに動けるためには、今この時に、発災時をしっかりと想定した受援体制作りが大切です。会員の皆さんの個人のスキルと相互の連携によって、より良い組織を作っていくください。宮城県は他県に比べれば比較的小さな県ではありますが、北の気仙沼市・栗原市から南の山元町・七ヶ宿町まで広いエリアをカバーしていく必要もあります。それぞれの地域で活躍できる男女を問わない人材育成も必要だと思います。自然災害の多い宮城県だからこそ、他県のモデルになる先導者になっていただきたいと祈念します。



「環七地下調節池施設」見学写真（筆者は最左）
（当時の執行部の皆さん：震災前の写真）

➤ 防災士として3.11に想うこと

林 美千夫さん

私の防災士取得のきっかけは、1995年の阪神淡路大震災です。その後、河北新報の「防災士特集号」を読んで更にチャレンジする気持ちになり、2006年に資格を取得しております。

取得後、3.11まで5年の時間がありました。特に、利府町役場や町内会・学校・幼稚園等に、減災教育、防災訓練等の体験が「自分の命を守る」ことにつながると声掛けを続けております。

3.11では多くの子どもの命を失い残念です。

そこで、2012年に4名の仲間と子ども向けの減災絵本づくりをスタートしました。素人なのでおよそ1年間の製作時間を要し、漸く2013年デビューすることになります。

絵本の名前エピソードです。フランス語名の「たんぼぼ」をいう「ダン=ド=リオン」から名付けました。つまり、減災絵本「リオン」が誕生したのです。

読み手はたんぼぼの妖精「リオン」、聞き手は子どもたち。リオンのポイントは、「正しく怖がる」こと。あたり前が一番幸せであることです。

最後に、リオンは減災の種を蒔くひと。子どもたちは土であり未来づくりのひとです。



NHKラジオ・ゴジだっちゃん（筆者は最左）

投稿特集：震災から10年を迎えて（2）

▶ 東日本大震災から10年、災害に備える

菊地正衛さん

◇東日本大震災発災の時わたしは・・・！

東日本大震災が発生してから早いものでもう10年が経った。被災地域は、関東以北の広範囲に及び死者・行方不明者数は全国で18,425人と、多くの犠牲者がでた。犠牲となったご家族の悲しみは、いかばかりか添える言葉が見当たらない。この有史に残る災害を忘れることなく後世に語り継いでいくことが大震災を経験した者としての責務だと感じている。

震災当日、2011年3月11日午後2時46分、私は仙台にある会社の中で会議中であつた。制震構造の建物ではあつたがもの、凄い揺れに壁にもたれ掛かるしかなかつた。会議を中断し、直ちに災害対策本部を招集し、社員の安否確認とお客様の被害状況の調査を行った。

幸いなことに建物や社員の被害はなく、安堵はしたものの、全国に出張している社員の帰社が通常ルートでは叶わず、東京方面からレンタカーなどを使い新潟県・山形県経由で社員に帰社するように指示をした。

会社は、前に入居していたビルが古く、災害に強いビルを探し、大震災発生の前年8月に完成したばかりのビルに移転したばかりだつた。既に『事業継続計画』を作成し、BCP対策に取り組んでいたので迅速な対応が可能であつた。当日、夜から社員に対する社内での炊き出しを1週間ほど行った。

私の住むマンションは、大規模半壊で食器や本棚からものが飛び出し、食器棚や本棚で壁が破れ足の踏み場がない状況であつた。家族は、住まい近くの公園で車中で二晩も過ごしていた。大きな給湯器が飛ばされ破損し、3ヵ月間も銭湯通いをした。



◇防災士資格を取得したわけ

私は、平成22年11月に防災士資格を取得し、直ぐに防災士会に入会した。定年近くになり「社会に貢献できるものはないだろうか」と防災士になった。会社で長い間、建物管理や安全衛生、BCPやISO等に携わってきたので、防災ということには馴染め易かつた。

防災士を取得してまさか東日本大震災が発生しようとは・・・！

◇震災を経験してわたしはどのような活動をしてきたか・・・！

防災士会に入会し自主防災組織の防災訓練、防災講話などに参加した。最初は先輩防災士の補助者として参加したが、先輩講師から資料の作り方などを教わり、一度講師を経験すると自信ができた活動に幅ができた。また、学校での防災授業や幼稚園等での減災絵本「リオン」

の読み聞かせ、サバ飯づくり等DIY、HUGも含め幅広い防災活動に参加してきました。様々な活動に参加することにより防災活動に欠かせない知識・情報を習得することができたと思っています。

防災士資格を取得してそれを実際に地域のために活用するには、防災士会みやぎに入会して、一緒に活動することによってなお一層幅広い知識の習得や仲間ができる。資格を取って満足ではもったいない。

東日本大震災以後にも台風など様々な災害が多発している。平成27年9月の台風9号大雨による被災地、古川で災害ボランティアに参加、令和元年10月の台風19号による被災した大和町、鹿島台、丸森町への災害ボランティア等に参加しました。

◇これからも地域のために活動・・・！

今は仙台を離れていますが、故郷の集落は災害がほとんど発生せず、のんびりしています。そのため防災マップも2009年に作成したのが最後で自主防災計画も組織もありません。過疎化も進み自治会長は防災マップをリニューアルしたいと話していますが先に進みません。まずは地元の防災体制づくりの起爆剤になりたいと考えます。

この新型コロナ禍で幅広く活動することは困難ですが、防災基準の見直しも随時行われており、コロナ対策も含めて防災活動に積極的に参加して行きたいと考えています。

気仙沼市大谷海岸駅の津波でループした線路、是非、多くのイベントに参加し知見を広め防災能力を高め、一緒に活動しませんか・・・？



投稿特集：震災から10年を迎えて（3）

➤ 震災を知らない世代へ伝えていく

平岡育子さん

東日本大震災から10年。震災を知らない世代へ伝えていくことの必要性を改めて感じます。

私自身、父方の祖父が体験した「関東大震災」のことを父から聞いています。父方の祖父は私が生まれた翌年に亡くなっているため直接聴くことは叶いませんでした。子どもの頃、社会の資料集の関東大震災のページを見ていた私に父が「おじいちゃん、関東大震災を体験していて、その建物（資料集に載っていた建物）の側にも行って直接見てるんだよ」と言ってきました。

社会の教科書の資料集に載っていた歴史上の出来事が身近になった瞬間でした。

東日本大震災の体験を家族が次の世代に伝えていくことで、災害が人ごとではなく、身近になると思います。



➤ みちのく杜の湖畔公園の活動ご紹介

土方敏彦さん

先の東日本大震災、発災から早いものです。10年になりました。

「国営みちのく杜の湖畔公園」では、この機会を捉え、防災士の皆さんの活動状況を紹介する「防災士会みやぎ活動紹介展」を企画展示いたしました。

まず、はじめに、「特定非営利活動法人 防災士会みやぎ」をパンフレットで紹介いたしました。「防災士会みやぎ」は、本会の目的である「自助」・「共助」の原則の元、会員のネットワークを構築し、防災士としての活動と技術研鑽を支援することに賛同する宮城県内等に在住する防災士有志によって構成する会です。

展示期間や展示場所は、下記のとおりです。

◇展示期間：令和3年3月20日(土)～令和3年4月18日(日)

◇展示場所：国営みちのく杜の湖畔公園

南地区多目的ホールふるふる内

◇見学料金：無料（入園料、駐車料が別途掛かります）

◇開園時間：9時30分～17時00分

（見学は16時50分まで）

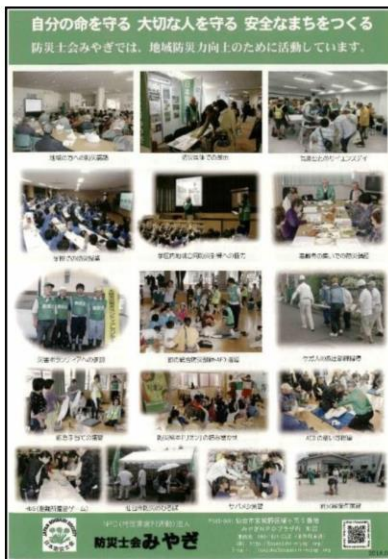
◇休園日：開催期間中は無休

◇お問い合わせ先：みちのく公園管理センター

説明等は、公園職員による災害地での活動について紹介いたしました。

好評裏に終了する事ができました。来年度についても、企画・検討を進めて参ります。

なお、活動紹介パネルは、「防災士会みやぎ」様から借用しました。



活動紹介パネル（借用：防災士会みやぎ）



紹介展示風景



東日本大震災でのボランティア活動（当公園スタッフ撮影）





TOPICS (トピックス)

➤ 減災読み聞かせ絵本「リオン」の販売状況

キッズ事業部



◆令和2年度はコロナ禍の影響もあり、派遣事業での「減災絵本リオン」読み聞かせの活動はありませんでしたが、全国から様々な活用のために問い合わせがあり、年間販売総計は154冊に上りました。特に新潟県上越市防災危機管理部市民安全課様からは、上越市内の幼稚園・保育所に寄贈するためと「140冊」ものご注文を頂きました。また「やまもと語りべの会」様からは紙芝居版をお求め頂きました。今後は紙芝居版ほか、様々なリオンの可能性についても検討していければと考えています。



➤ スキルアップ研修会の開催

研修事業部

◆平成2年9月6日(日)、第1回スキルアップ研修会をエルパーク仙台のセミナーホールで開催いたしました。講演①として、「コロナ禍での避難所運営について」と題して、副理事長の高橋健一さんから、熱き思いを会員の皆さんに伝授頂きました。続いて、講演②として「自然災害から命を守る ハザードマップを読み解く」と題して、理事の阿部馨さんから、専門知識を分かり易く、解説頂きました。



◆第2回スキルアップ研修会は、令和3年2月21日(日)に、エルパーク仙台のセミナーホールに、「厚生労働省 災害派遣医療チーム DMAT事務局 元復興庁 男女共同参画班 政策調整官 小児救急看護認定看護師 上吉原 良実さん」をお迎えし、「災害時要援護者への支援と避難所運営～新型コロナウイルス感染症対策も踏まえて～」と題しまして、ご講演を頂きました。参加者21名は、被災現場の豊富なご経験に裏打ちされたお話には、唸るばかりの感想に満ち溢れておりました・・・！

➤ 仙台防災未来フォーラム2021に出展

広報部

◆令和3年3月7日(日)に、仙台国際センター展示棟で開催されました

「仙台防災未来フォーラム2021」

に、広報部を中心に出展いたしました。

主に、日頃の活動事例を中心に展示いたしました。

- ・当会はこのような活動をしています(ポスター)
- ・減災絵本「リオン」展示(リオン購入申込書含)
- ・防災士機構冊子・日本防災士会リーフレット
- ・防災士会みやぎリーフレット(防災士会みやぎ入会申込書含)

なお、今回は、展示ポスターを展示用パネルに貼り付け、見やすい掲示内容になり、多くの市民の皆さんが、足を止めて頂き、熱心に説明を聞いて頂きました。



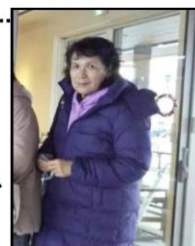
新入会員紹介

黒田恵美子さん

初めまして・・・！ 「防災士会みやぎ」に入会させて頂きました黒田恵美子です。

東日本大震災後、防災・減災に取り組みたく、防災士の資格を取りました。その後、活動はしていましたが、今回、会員の方からお誘いを受け、皆様のお仲間に加えて頂きました。

今後共、よろしくお願いいたします・・・！



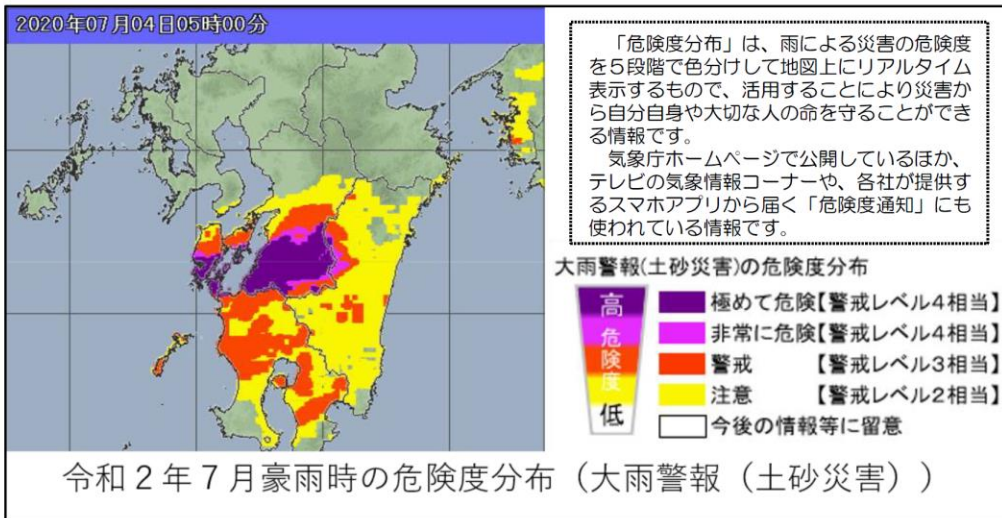
☆気象庁は、令和3年3月17日、大雨による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる「危険度分布」の愛称を沢山の応募の中から、「キキクル」に決定しました。



この愛称は「危機が来る」がもとになっており、選考では、危険が迫っていることが分かりやすい、文字数が少なく視認性に優れる、などが主に評価されました。いざという時の自主的な避難の判断に積極的に活用しましょう。

☆なお、「土砂災害、浸水害、洪水の危険度分布」について、それぞれ愛称を用いた表記を以下のようにいたします。

- 大雨警報（土砂災害）の危険度分布 ⇒ 土砂キキクル
- 大雨警報（浸水害）の危険度分布 ⇒ 浸水キキクル
- 洪水警報の危険度分布 ⇒ 洪水キキクル



編集後記

第16号、今回も無事、出来栄はいざ知らず、皆様にお届けでき、安堵しております。新型コロナウィルスが蔓延しているのは、過度に活動している人間に対する警鐘と考えるのは私だけでしょうか・・・？

〔K〕

今年3月に「仙台防災未来フォーラム」が開催され、その中でワークショップでは、日々の活動に深みを頂戴したように感じております。日頃の活動の積み重ねの大切さを痛感しております。



〔W〕

スキルアップ研修では皆様のご理解とご協力により、コロナ禍にありながら、目標の2回の研修会を開催することができ、感謝しております。一刻も早い終息を、願うばかりです・・・！

〔S〕



発行 特定非営利活動法人 防災士会みやぎ

■発行者 理事長 児玉敏幸
 広報部 門脇恒男・若生 彩・繁野みど里
 〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
 みやぎNPO プラザ内 No.22
 連絡先：080-1821-0335
 情報・ご意見はメールでお願いします。 jimukyoku@bousaishi-miyagi.org

